

図書案内

2019年 5月号

担当 3-2H 松平 3-7H 志鷹

スポーツが楽しくなる本



5月です。高校総体が近づいてまいりました。出場される方々にはぜひ頑張って欲しいものです。さて、今回のテーマは「スポーツ」。運動が苦手という人でも、本を通してみるとその面白さや、部活に打ち込んでいる友だちの気持ちがわかるかもしれません。是非読んでみてください。スポーツに向いている季節なので、勉強や読書に疲れたら、サーキットトレーニングで脳を休めてみるのもいいかも!? 本は図書館で貸出しています。



『かまえ! ぼくたち剣士会』 向井湘吾/著

元剣道部の隼一は、体育で剣道の試合をしたことをきっかけに彼の通う学校で剣道をしている龍心にスカウトされる。しかし、その学校には剣道部が存在しておらず……!?

「論理」を武器に戦う気弱な剣士が、一癖も二癖もある仲間たちと共に、剣道部を認めてもらうため関東大会を目指す物語。(松平)

「一緒に探しに行きてえんだよ。剣道の一番深いところを」



『生と死のミニャ・コンガ』 阿部幹雄/著

中国・チベットの峻峰、ミニャ・コンガ。北海道からの登山隊8人が頂上を目前に滑落死する。さらに、悲劇はこれに留まらず……。その様子を間近で見た若者の感じたものとは。死を悟り、生を知る悲劇の実話。

登山用語が少し難しいですが、調べながら読むと一層臨場感と恐怖が増します。描写が細かく、背筋が凍るようでした。(志鷹)

「生きていることは、ただそれだけで幸せなのだ」



『俺たちの「戦力外通告」』 高森勇旗/著

プロ野球では表舞台で華々しく活躍する選手がいる一方で、毎年何人もの選手が「戦力外通告」を受けている。それはかつて結果を残した名選手として例外ではない。

この本には戦力外通告を受けた選手のエピソードが26編収録されている。普段は知ることのない、戦力外通告を受けた選手たちが何を感じ、その後どうやって生きているのか、この本を読んで是非知って欲しい。(松平)

「自分に合っていないことをやるのは、時間の無駄だから」



『白をつなぐ』 まはら三桃/著

都道府県対抗駅伝の練習に励む福岡チーム。中学生から社会人まで、それぞれの背負うものは違えど、目標はひとつ「白をつなぐ」。全員の思いが、たすきをつなぐ感動の話。

字数も少なく読みやすいと思います。選手一人ひとりの思いとチームのつながりが巧みに描かれています。ところで、走っている時って、何を考えているんだろう……。 (志鷹)

「長距離は、画家がまっさらなキャンパスに絵を描くような、小説家が白い原稿用紙に文章をつづるようなものだ」

インターハイについて

今月はいよいよ高校総体が始まります。この大会の先に待っているのが、全国高等学校総合体育大会(通称インターハイ)です。全国高等学校体育連盟が主催し、全日制と定時制・通信制に通う高校生に分かれた大会が開かれています。夏季大会と冬季大会があり、おもな競技は8月に開催される夏季大会で約30種目行われ、12月下旬から2月の間に開催される冬季大会ではスキー・スケート・駅伝・ラグビーなどの競技が行われます。元々は各種目ごとに開催されていましたが、各競技団体の全国大会を統合するあたりで、1963年に第1回目のインターハイが開催されました。以来インターハイは高校生の競技者にとってひとつの目標であるとともに、次世代の選手の育成・奨励の場となっています。

【出典】 http://www.homemate-research-athletic-field.com/useful/15775_sport_056/

